

突然の長期臨時休校に 学校現場も家庭も混乱 — 子どもたちにとって今大切なことは何なのか —

2月27日安倍首相は新型コロナウイルスに関わって、唐突に全国一斉休校を要請しました。これに対し全滋賀教組は翌28日の午前、県教委に下記の要望書を手渡しました。

記

滋賀県教育委員会
教育長 福永 忠克 様

新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる休校措置要請についての要望書

2月27日、安倍総理は、感染拡大防止のため全国すべての小中高校・特別支援学校を週明け3月2日から休校とするよう要請すると表明しました。休校措置の発表があまりにも唐突で現場や家庭に大きな混乱をもたらしています。休校措置はあくまでも要請であり、判断の主体は県教育委員会にあります。滋賀県の教育に責任を負う立場から子ども最優先で対応することを求めて、以下の点について要望します。

記

1. 休校措置の要請に対しては、学校や家庭の実情を十分に踏まえた上で、柔軟に対応すること。
2. 要請通りに週明けから休校措置をとることは、学校や保護者の対応が間に合わず大きな混乱をもたらす可能性がある。かりに休校措置を導入する場合は、少なくとも一定の準備期間を設けること。
3. 学年末テスト、入学試験、卒業式・終業式は当事者にとって極めて重要なものであることを鑑み安易に中止や延期にはせず、実施する方向で尽力すること。

同日、県教委が、各県立学校長と市町教委に対し臨時休業の要請についてという通知を行いました。28日午後、全滋賀教組の小、中、高、障害児の各校種から再度それぞれの具体的な要望書を提出しました。

【校種別要望の主な趣旨】

(小中)

○児童・生徒の健康と安全の確保、学習権の保障を最優先事項とし、保護者が不在になる家庭などの児童・生徒の生活実態を正確に把握し、併せて保護者負担を極力軽減するため行政として必要な措置を講じること。

○卒業式、修了式などの学校行事は、安易に中止や延期せず、登校日設定や必要な児童・生徒の登校(預かり)を感染防止に努めながら実施する方向で尽力すること。

市町や学校の状況を見ながら、休校期間の終了について県教育委員会の責任で判断すること。

以上の実施にあたっては、医療専門家の意見を聞くとともに、関係者の協力を得ながらとりくむこと。

～ **みなさまの声を寄せてください!** ～

全滋賀教組は、引き続きこの問題について、子どもの安全を守りながらより良い教育を進めるため、保護者、現場の先生方の声をもとに、学校教育関係機関とも連携しながら活動していきます。引き続きファックスニュースやホームページをご覧ください、皆様の率直なご意見や、不安、不満の声を積極的に全滋賀教組までお寄せください。

しんぶん全滋賀教組

FAX News

UNITE

2020年3月2日